

完成！狭山スカイテラス オープニングフェスタ

—ふみだそう新たな一歩 元気・活気・熱気—

7月14日～16日の3日間、市民広場と新しい施設「市民交流センター」において、狭山市駅西口地区再開発事業完成記念イベントが大々的に開催された。文団連は副実行委員長兼15・16日の市民交流センターの総責任者として重責を担った。

これは、およそ60余年に渡る懸案の完成であると同時に、新しい一歩を踏み出すという、狭山市にとって重要なイベントとの認識で、文団連としては全面的に協力をするという考えで次のような目標を主軸に据えた。『人々の心が疲弊している昨今、市民にとってこのイベントが、狭山の明るい未来を予感させるものになると同時に、市民の郷土愛を喚起するきっかけになれば』そのためにはまず、多くの市民に会場行く必要があり、またイベントが市民参加という一面を持つと同時に、鑑賞者が感動できるものにする必要があった。



市民広場から旧中央公民館方面を臨む

とダンス・邦楽(太鼓と笛)・フォルクローレの各プロによる演技に、来場者は一度で七カ国の芸術を堪能。16日は午前が「よさこいフェスティバル」午後が「ダンス甲子園」で、若者層がそのエネルギーを燃焼させた。

狭山市の魅力としては「入間馬車鉄唱歌」「狭山ふるさと音頭」「春の神話」「射留魔のテント山」「狭山七夕縁起」などを15日の舞台公演にちりばめた。

また市民交流センター全館を使用して、3日間、美術品・写真・いけばな・書などを展示。文団連傘下団体を中心に、作家や県の文化財課のご協力のもと、院展・県展の入選作品や日展審査員による作品も展示する事が出来た。更に呈茶・紙芝居・楽器の体験コーナー・ロビーでのバロック音楽公演など、またオリピーやコバトン・まもる君もフル稼働し、欲張りな企画は大成功のうちに幕を閉じた。

市の担当課や中央公民館・市民交流センター・中央舞台サービスなどの関係者と、青年会議所・商工会議所青年部、そして我が文団連がひとつになって、このイベントを市民にとってより素晴らしいものにとの想いで難題に取り組み、当初未完成だった未知の施設と格闘しながら協力し合って得た結果であると思っている。文団連で言えば、出展出演55団体中23団体およそ260名は文団連、また前日作業や当日スタッフとしておよそ25名の文団連会員が汗をかいた。

来場者数は、予想をはるかに越えた嬉しいものであった。
公式発表⇒14日200人・15日8,000人・16日4,000人・合計12,200人。
市民広場3日間合計2,800人。イベント総計15,000人。

一例として茶道連盟の協力で行った呈茶は、開始後わずか2時間で、用意していた200人分の菓子が無くなり終了となった。嬉しい誤算だった。

第一歩を踏み出し、これからが本番の狭山市に、今後も元気・活気・熱気が溢れみなぎるよう願って、怒濤のようだった2ヵ月半の幕を閉じたい。

お世話になった皆様には心より感謝申し上げます。ご協力有り難うございました。



狭山市駅西口と新設の市民交流センター(右側のビル)

15日は3公演を行った。1部「元気～空にはばたけ狭山っ子」は300名を超える児童生徒が合唱などで参加。2部「活気～市民の祭典」は文団連傘下団体ほか市内の文化団体が種々の演技を披露。3部「熱気～世界が狭山にやってきた」は、ジャズ・中国音楽と舞踊・オカリナ・韓国音楽と舞踊・ルネサンス音楽

とダンス・邦楽(太鼓と笛)・フォルクローレの各プロによる演技に、来場者は一度で七カ国の芸術を堪能。16日は午前が「よさこいフェスティバル」午後が「ダンス甲子園」で、若者層がそのエネルギーを燃焼させた。



入間馬車鉄唱歌を合唱する第一部出演者



狭山観光大使のオリピーも大活躍

狭山市文化団体連合会副会長 横山美衣